

**授業概要**

財務諸表は、貸借対照表や損益計算書といった会計報告書の総称である。財務諸表は、一般に、制度の下で公表される財務諸表を対象とし、その財務諸表が伝える内容は、財務諸表の利用者の関心に適ったものでなければならない。また、財務諸表が伝える内容は、企業の経済活動の記録に基づいた結果であり、その記録内容や結果は、適切に表示されなければならない。したがって、財務諸表論では、財務諸表を作成、表示するための一定のルールすなわち法規や会計基準や、具体的な経済活動とその会計処理について学ぶ。範囲が後半であるために、財務諸表論は、ⅠとⅡに分かれている。

**授業計画**

第1回	資本金～純資産の意義と分類
第2回	資本金～株主資本
第3回	資本金～株主資本等変動計算書
第4回	損益計算の意義と諸原則
第5回	損益計算書の様式と作成
第6回	営業収益と収益認識会計基準
第7回	営業費用
第8回	営業外収益・費用（含む、外貨換算会計の基礎）
第9回	特別利益・損失と法人税等（含む、税効果会計の基礎）
第10回	財務諸表の意義と種類
第11回	連結会計～連結の範囲
第12回	連結会計～資本連結
第13回	連結会計～未実現利益の相殺消去
第14回	包括利益
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 内容は目安であるため、内容が前後したり、複数回にわたることがある。

**到達目標**

- ・簿記を含む、具体的な会計処理を理解できる。
- ・行われている会計処理の背景にある考え方を知ることができる。
- ・開示されている財務諸表の概略を理解できる。

**履修上の注意**

・公表する財務諸表を対象とした授業なので、簿記検定の範囲でいえば商業簿記2級以上の内容が含まれる。また、授業内容に仕訳を含む。1年次から履修登録が可能である理由は、入学前から簿記会計にかかわる学習経験者がいるためであり、学習経験者以外は、初級簿記および中級簿記を履修した後に登録すること。

**予習・復習**

- ・予習：テキストの下読み。
- ・復習：授業内容を文章でまとめるための準備。

**評価方法**

- ・定期試験（筆記）（100%）で評価する。
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には、原則として、単位を認定しない。

**テキスト**

・新井清光・川村義則『新版 現代会計学<第3版>』中央経済社、2,400円＋税（ISBN：978-4-502-34641-5）。

なお、頻繁に改訂されるので、最新版を用意すること。授業「財務諸表論Ⅰ」でも使用する。